

青稜中学校・高等学校 SDGs 部×株式会社ローソン×品川区で地域の子育て家庭を支える「しあわせ食卓事業」に職員が参加しました。

品川区にある青稜中学校・高等学校 SDGs部と株式会社ローソンと品川区が連携し、支援が必要な子育て家庭に食品や日用品をお届けする「しあわせ食卓事業」。産官学が連携して、地域社会を支えていこうという先進的な取組です。

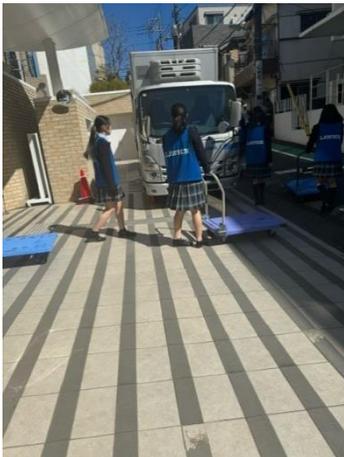
朝、春休みに入った学校に続々と商品が到着。お揃いのビブスを着た SDGs部の生徒とローソン社員、品川区の職員がいっしょに教室に運んでいきます。

手分けして組み立てられていく段ボール箱、そして流れ作業で丁寧に箱詰めされているレトルト食品やカップ麺などの食料品をはじめ、タンブラーやキッチンスポンジなどの日用品。

「箱をあける人の気持ちになって、ていねいに商品を扱おう」という声掛けもあり、生徒たちはテンポよくかつ慎重に箱詰めしていきました。そして無事に 492 箱が完成。この後、事前に「しあわせ食卓事業」に申し込みされた品川区内のご家庭に届けられます。

品川区担当者からは「食品の寄付をいただくことは多いが、その仕分けや荷造りの場所の確保が課題になっていたところ、学校という場を提供いただき大変助かっている。」ローソン担当者からは「自治体と学生の皆さんと一緒に活動で、地域に貢献できるということは企業にとっても非常に意味がある」というお話も伺いました。

次々と荷物を運び入れ、ていねいに作業していきます。
お手紙とともに商品を箱詰め。トラックに詰込み、各ご家庭へ。
青稜中・高 SDGs 部のみなさん、笑顔でポーズ。



今回の活動で「一区切り」となる、部活をひっぱってきた新高校3年生に話を聞きました。

「地域社会に入っていくという経験は、この部活動ならではの。自治体って今までは届出を出すところぐらいのイメージしかなかったけれど、こういうコラボができるんだと知った。SDGs部でまたとない経験ができました。」

「活動をしていく中で、地域のみなさんから『がんばってるね』などと声をかけてもらったり、とてもうれしかった」

企業や消費者のつくる責任つかう責任、そして子どもたち自身の地域を支えていこうという気持ちがつながり、SDGs部員はじめ参加者みなさんの充実した表情が印象的な取組でした。

【概要】名称:「しあわせ食卓事業」子ども家庭庁との連携/ 場所:青稜中学校・高等学校(品川区) / 日程:令和6年3月22日(金) / 内容:青稜中・高SDGs部と株式会社ローソン、品川区の「しあわせ食卓事業」の視察参加 / 主催:青稜中学校・高等学校、株式会社ローソン、品川区